

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
総合診療科・総合外科	必修	2	3	2	月～金	宮崎英士 上田貴威 他

【科目名の英文】 General Medicine／Comprehensive Surgery

【授業の概要】

- ・医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ
- ・患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション技法を学ぶ
- ・保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する能力を育む
- ・地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する
- ・在宅医療と介護の基本を学ぶ
- ・プライマリ・ケアで頻度の高い症候・疾患に対する内科的・外科的診療の基本的な考え方を学ぶ

【具体的な到達目標】

- ① 臓器別の知識を統合し、症候から診断に至る過程、治療法の選択について概説できる
- ② 患者の心理的・社会的背景を知る必要性を概説できる。
- ③ 患者の心理的・社会的背景を理解しつつ、患者や家族と良好な関係を構築できる。
- ④ 患者のプライバシーに配慮し、患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる
- ⑤ チーム医療の意義、医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明できる
- ⑥ 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性、介護保険制度などの医療保険福祉制度を概説できる
- ⑦ 介護の定義と種類を説明でき、日常生活動作<ADL>（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる
- ⑧ 社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因(social determinant of health)）を概説できる。
- ⑨ プライマリ・ケアにおいて頻度の高い疾患について、症候・病態生理・診断・治療について概説できる。

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	腹部診断学(1)	黄疸の診かた	総合外科・川崎	講義 (PBI)
2	治療学(1)	炎症性疾患に対する治療 (1)	総合外科・上田／川崎	講義 (PBI)
3	特別講演	看護師の特定行為について	看護部・看護師／上田	講義
4	腹部診断学(2)	悪性腫瘍の診かた	総合外科・上田	講義 (PBI)
5	特別講演	家族志向のケア	奈義ファミリークリニック・松下	講義
6	チュートリアル1	臨床推論	総合診療科・塩田	PBL・発表
7	チュートリアル2	地域医療	総合診療科・宮崎	PBL・発表
8	特別講演	在宅緩和ケア	潁田病院・吉田	講義
9	特別講演	家庭医療の魅力	浮間診療所・藤沼	講義
10	特別講演	MSW の役割・医師との関わり	患者センター・MSW	講義
11	チュートリアル3	BPS モデル	総合診療科・吉村	PBL・発表
12	チュートリアル4	地域包括ケア	総合診療科・土井	PBL・発表
13	地域連携学	地域医療の醍醐味	山香病院・小野	講義
14	チュートリアル4	健康の社会的決定要因	総合診療科・山本	PBL・発表
15	チュートリアル5	地域ヘルスプロモーション	総合診療科・堀之内	PBL・発表
16	治療学(2)	腹痛の診かた	総合外科・白石／上田	講義 (PBI)
17	治療学(3)	プライマリ・ケアでの小外科	総合外科・白石／川崎	講義 (PBI)

18	特別講演	外科周術期における疼痛／緩和ケア	看護科・寺町	講義
19	医療総論	専門医・キャリアパス形成	総合外科・上田／川崎	講義
20	チュートリアル6	行動変容	総合診療科・宇都宮	PBL・発表
21	特別講演	緩和ケアのパラダイムシフト	飯塚病院・柏木	グループワーク
22	オリエンテーション	シャドウイングオリエンテーション	総合診療科・山本	講義
23	シャドウイング	診療所実習	各診療所医師	実習
24	実習	お礼の手紙	総合診療科・堀之内	実習
25	特別講演	保健所の業務	県保健福祉部・池邊	講義
26	チュートリアル8	患者中心の医療	非常勤・藤谷	

<p>【アクティブラーニングの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療において頻度の高い症例を用いた学習では、チュートリアル形式や Problem based Interview(PBI)を採用し、学生に診断や治療について自発的・積極的に考える機会を与える。医師としての自覚とやりがいを伝授する。また、この際、同領域の医師国家試験の既出問題も紹介する ・実習では、在宅医療、介護医療を経験し、医師としての社会性を自覚させる 	<p>【その他の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に興味を持ち、理解を深める目的にて、実習前に地域医療の医療サービスや地域包括ケアシステムなどについての学習を行う ・講義や実習では、急性期から回復期や慢性期への医療マネジメントの考え方、および医療機関の連携の在り方を学ぶ
--	---

【時間外学修の内容と時間の目安】
 事例について、時間が不十分であれば時間外に自己学習する。
 また、時間外学習としてチュートリアルに関するレポート作成を行う（計8時間程度）

【教科書】

- ・地域医療学入門（責任編集）岡崎仁昭、松本正俊（監修）日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域・医療教育協議会合同編集委員会、診断と治療社 2019年7月
- ・地域医療テキスト（編集）梶井英治、（執筆）中村伸一ほか、（監修）自治医科大学、医学書院、2009年3月
- ・新・総合診療医学 家庭医療学編第2版、（著者）藤沼康樹、カイ書林、2015年2月

【参考書】

- ・症例で学ぶ外科診療 Clinical Scenarios in Surgery、（編集）Justin B. Dimick, Gilbert R. Upchurch Jr, Christopher J. Sonnenday、（訳）安達洋祐、医学書院、2017年9月
- ・米国式 Problem-Based Conference（著者）町淳二・児島邦明、医学書院、2003年12月

【成績評価方法及び評価の割合】

グループ学習での評価（20%）、地域医療実習評価(30%)、試験（50%）、60点以上を合格とする。
 ただし、地域医療実習評価に問題のあるものは単位を認めない。

【注意事項】

【備考】

教員の実務経験の有無	○	医師
教員以外で指導に関わる実務経験の有無	○	医師
実務経験をいかした教育内容	3年生の地域医療実習では、シャドウイングとして外来の見学実習を行う。その際に、実際の現場で医師としての仕事を見せていただく。	
授業形式	対面授業	